

MRIによる乳腺腫瘍の評価

【はじめに】

乳腺腫瘍の画像診断としてはマンモグラフィ、超音波、MRIが主として挙げられます。特にMRIにおいては、様々な撮像法が進歩し、形態や血管新生、血管透過性、間質の多寡などに加えて、細胞密度、腫瘍内代謝物質の検出などの形態とは異なる評価が可能になってきています。しかし、従来の研究は良悪性の鑑別、組織型推定や広がり診断に関するものが主でした。

【対象】

2005年4月1日から2011年3月31日までに、九州大学病院放射線科においてMRI撮影を行った乳腺腫瘍の患者様のMRI画像を対象としています。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究内容】

鑑別診断のみでなく、MRI所見と予後、予後因子との関連を検討し、画像所見により悪性度診断や予後予測が可能であるか考察します。

【患者様の個人情報の管理について】

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、MRI画像等のデータを匿名化した上で研究に用います。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【研究期間】

研究を行う期間は平成23年6月14日から平成27年12月31日

【医学上の貢献】

術前に悪性度を判断することで、術前化学療法の併用の適応や術式決定に有用な情報を得られることが期待できます。

【研究機関・組織】

九州大学医学研究院 臨床放射線科
教授 本田浩（責任者）、助教 松尾芳雄、神谷武志
九州大学病院放射線部
准教授 畠中正光
九州大学医学研究院 保健学部門

准教授 藪内英剛

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel 092-642-5695

担当者 神谷武志